

パラリンピック始まる

ロンドン2012パラリンピック（第14回夏季大会）が、明日（8月29日）から9月9日まで開催されます。

去る8月24日には、聖火の採火式が、ロンドン中心部のトラファルガー広場で行われています。

採火式にはキャメロン首相が出席し「今回のパラリンピックは過去最大規模となる。」と挨拶をされていますが、参加国・地域は前回の北京大会（146国・地域）を超え160の国と地域から、20競技503種目に約4200人の選手が参加します。

日本からは、135人の選手に121人の役員を加え256人の選手団を編成し、大会に臨んでいます。

今回のパラリンピックについて、チケットは既に230万枚（北京大会の時は180万枚）も売れているそうです。余りの人気に、オリンピック委員会は、「競技を見る事はできないけれどオリンピック・パーク内に入ることはできる」というチケットを10万枚追加販売することしたそうですが、英国内での盛り上がり伝わってくるようです。

そもそも、パラリンピックというのは英国が発祥の地ですから、国民の関心が高いのも頷けます。

パラリンピックは、ロンドンのストーク・マンデビル病院のルートヴィヒ・グットマンという医師が、第二次世界大戦で負傷した兵士のリハビリテーションのためにスポーツを奨励し、1948年にロンドンオリンピックが開かれた際、その開会式に合わせてこの病院でスポーツ大会（ストーク・マンデビル大会）を開催したのが嚆矢とされています。

パラリンピックのマスコットは「マンデビル」という名前ですが、これは、パラリンピックの起源となった場所、ストーク・マンデビル病院にちなんでつけられたといわれています。

この為、パラリンピックはスタートの時点ではオリンピックとは関係がありませんでしたので、開催地もオリンピックの開催地とは異なっていましたが、

ソウルオリンピック以降、オリンピック開催地で行われる事となりました。

パラリンピックの語源は、半身の不随（paraplegic）とオリンピック（Olympic）が合体した造語ですが、パラリンピックには半身不随者だけでなく視覚障がい者や運動機能障がい者、知的障がい者なども参加するようになったため、今では、平行を意味するParallelとオリンピック（Olympic）が合体した言葉と理解されています。

パラリンピックは、障がい者のスポーツということで、当初は競技性に対する評価は必ずしも高くはありませんでしたが、近年、競技スポーツとしてのレベルの向上には著しいものがあります。

車いすマラソンや車いすバスケット、更には水泳など、障がい者スポーツ大会の様子を拝見していると、障がいを持ちながら良くあれだけの事が出来るな、と感心します。そして同時に、彼ら、彼女らが、肉体と技を鍛え上げるために、日々、如何に努力を重ねているかも容易に想像することができます。

障がいがあってもなくても、一つの事に真直ぐに、全力で立ち向かっていく姿に、私たちは感動するのだと思います。

北海道からは、水泳の小野智華子さん、車いすバスケットの京谷和幸さん等4人の方々が参加します。

いずれの皆さんも、これまでの練習の成果を発揮して、悔いのない試合をして欲しいと思います。そして何よりも、パラリンピックの大舞台を楽しんで欲しいなと願っています。

皆さんで、日本選手団を大いに応援しようではありませんか。

（塾頭 吉田 洋一）